

輸血部ニュース

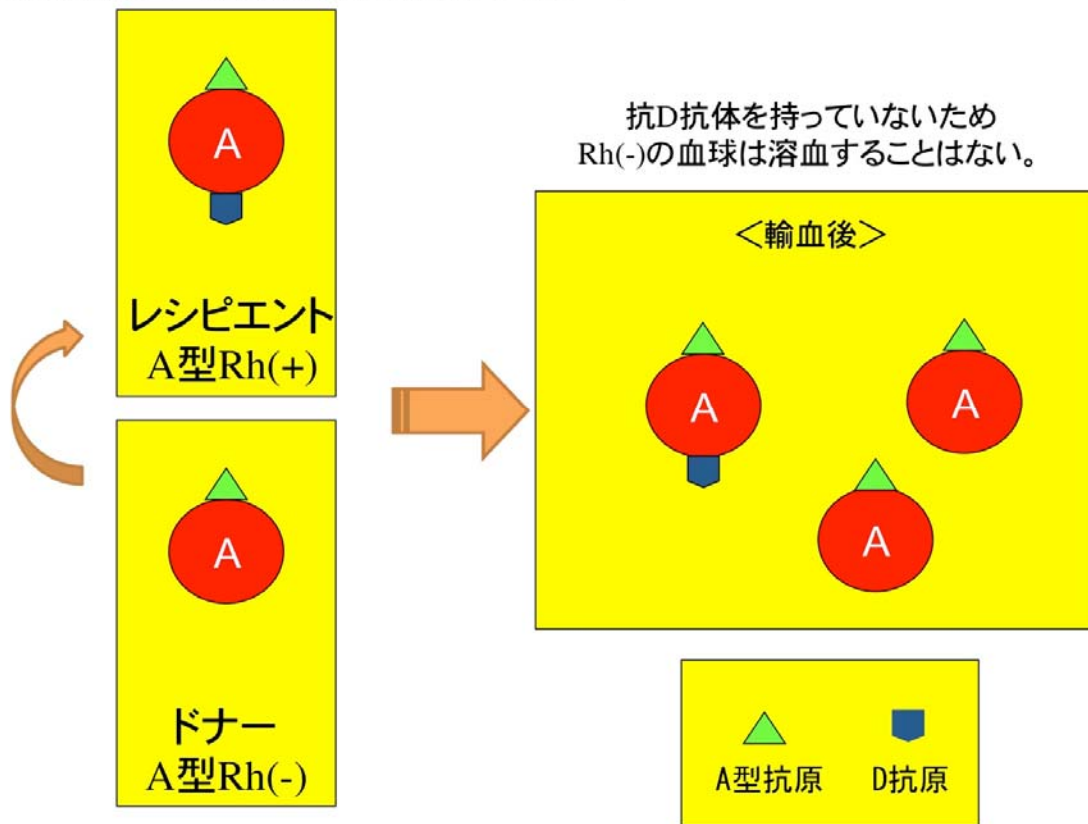
13-vol.1 2013年8月22日
 広島大学病院 輸血部 発行：藤井 輝久
 編集：齊藤 誠司
 輸血部内線：5582, 6227
 PHS:2894, 2389

Rh (-) 血の有効利用にご協力ください

Rh 式血液型は C、c、D、E、e などの抗原があり、これらのうち D 抗原がある場合を“Rh プラス” ない場合を“Rh マイナス”と言います。本邦における Rh 陰性者は人口の約 0.5%で、Rh 陰性者に対しては緊急時を除き、Rh 陰性血の輸血を行います。しかし一方で Rh 陽性者に Rh マイナス

の製剤を使用しても医学的には全く問題はありません（下図）。血液製剤の在庫状況により、Rh 陽性者に Rh 陰性血の使用をお願いすることがありますが、安全性に何ら問題はございません。輸血部より依頼があった際にはご理解、ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

Rh(+)の患者にRh(-)の赤血球輸血を行っても・・・。



アルブミン製剤の適正使用推進

当院でのアルブミン製剤の使用量は全国の大学病院全体の中でも上位にあり、やはり“過剰に使用されている”と言わざるを得ません。アルブミン製剤の原材料は血漿で、その多くは国内の献血者からのものです。献血人口の低下もあり適正使用を推進していく必要があります。輸血療法委員会では今年度より、アルブミン製剤の適正使用指針（本院輸血療法マニュアル参照）

に照らし合わせ、明らかに使用基準を満たさず、長期間に渡りアルブミン製剤を投与している症例に関して注意喚起を行っていくこととなりました。下記の基準を満たさない場合には、“過剰使用ではありませんか？”といった注意喚起を掲示版へ記載します。その際には今一度、その適応をご確認いただき、適正使用にご協力いただくようよろしくお願いいたします。

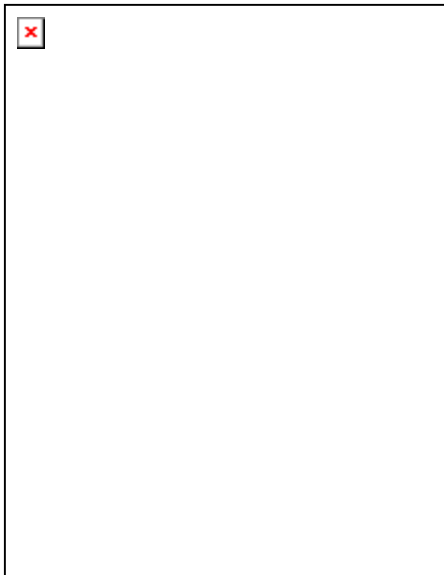
アルブミン製剤使用に関する注意喚起基準

アルブミン製剤が14日間以上継続して使用されており、かつ使用基準（輸血療法マニュアル参照）を満たしていない場合。

日本輸血・細胞治療学会 I&A の認定施設となりました！

昨年度、日本輸血・細胞治療学会によって行われる I & A (Inspection(査察)して Accreditation(認証)するシステム) の査察を受け、認定施設となりました。これは当院での輸血療法の安全性と血液製剤の

管理体制が評価されたことを示します。認定基準を満たすことができましたのも、皆様の日々の診療におけるご尽力のお陰であります。今後ともご協力よろしくお願いいたします。



この記事に関するお問い合わせは

輸血部内線 5582, 6227 まで